

主体的・対話的な深い学びとその評価

第5講 主体的・対話的な深い学びとコミュニケーション

林 徳治
(甲子園大学)

久世 均
(岐阜女子大学)

「主体的・対話的な深い学びとその評価」

【目的】

主体的・対話的な深い学びと、コミュニケーションについて理解する。

【学習到達目標】

- a. 主体的・対話的な深い学びについて説明できる。
- b. 深い学びとコミュニケーションとの関係について具体例を挙げて説明できる。
- c. 深い学びと学習目標について具体的に説明できる。

学習指導要領改訂の視点

学習指導要領改訂の方向性（案）

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

主体的・対話的な深い学
びの実現とは？

主体的な学びとは？

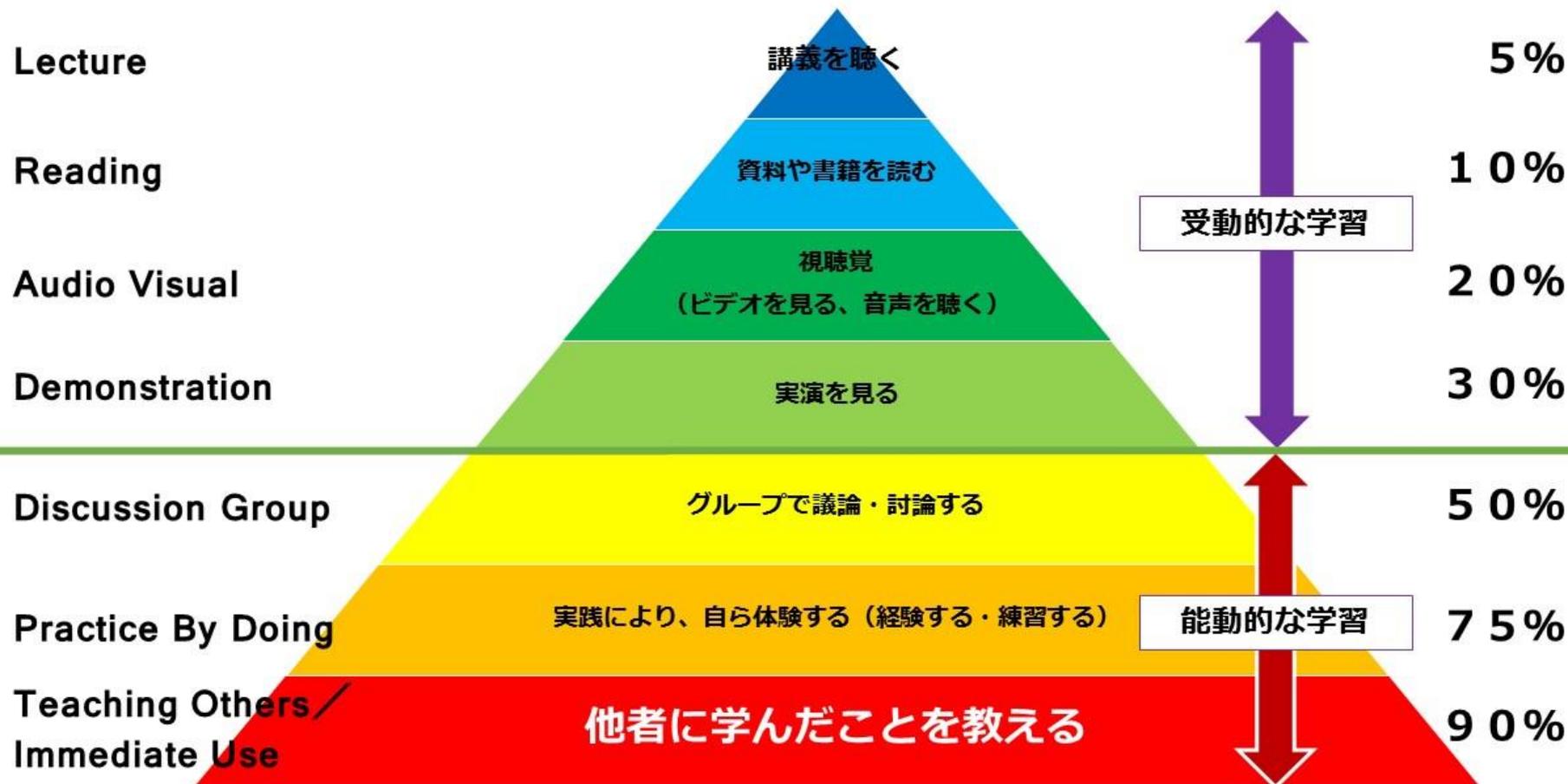
自主的な学びとはどこが違うか？

「自主的」とは単純に「やるべきこと」は明確で、その行動を率先して人に言われなくて自らやることです。

「主体的」は、何をやるかは決まっていない状況で自分で考えて、判断し行動することです。

対話的な学びとは？

アクティブ・ラーニング（能動的学習）平均学習定着率 Learning Pyramid（ラーニング・ピラミッド）



深い学びとは？

学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

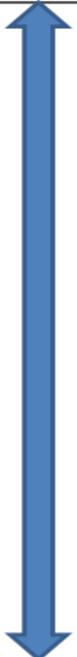
深いアプローチ

- これまで持っていた知識や経験に考えを関連づけること
- パターンや重要な原理を探ること
- 根拠を持ち、それを結論に関連づけること
- 論理や議論を注意深く、批判的に検討すること
- 学びながら成長していることを自覚的に理解すること
- コース内容に積極的に関心を持つこと

浅いアプローチ

- コースを知識と関連づけないこと
- 事実を棒暗記し、手続きをただ実行すること
- 新しい考えが示されるときに意味を理解するのに困難を覚えること
- コースか課題のいずれにも価値や意味をほとんど求めないこと
- 目的や戦略を反映させずに勉強すること
- 過度のプレッシャーを感じ、学習について心配すること

活動の「動詞」から見る学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

学習活動	深いアプローチ	浅いアプローチ
<ul style="list-style-type: none"> ●振り返る ●離れた問題に適用する ●仮説を立てる ●原理と関連づける ●身近な問題に適用する ●説明する ●論じる ●関連づける ●中心となる考えを理解する ●記述する ●言い換える ●文章を理解する ●認める・名前をあげる ●記憶する 		

Entwistle, McCune, & Walker (2010), table 5.2 (p.109)の一部を翻訳

Biggs & Tang (2011), Figure 2.1 (p.29)の一部を翻訳・作成

『ディープ・アクティブラーニング 大学授業を深化させるために』第1章（溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）執筆）より 195

教育目標のタキソノミー（分類学）

- ベンジャミン・ブルーム（1956）が“Taxonomy of educational objectives”のなかで提唱した「**教育目標のタキソノミー（分類学）**」
- 目標の能力面を階層的に整理したもの
- 上位のカテゴリーは下位のカテゴリーより複雑で、抽象的あるいは内在化された能力となっている。

3次元（領域）から構成される教育目標

- **認知的領域(cognitive domain)**
知識の再生や知的技能の発達にかかわる。
- **情意的領域(affective domain)**
興味・態度・価値観にかかわる。
受容（注意）→反応（興味）→価値付け（態度）
→価値の組織付け（哲学）→個性化（スタイル）
- **精神運動的領域(psychomotor domain)**
運動技能や操作技能にかかわる。

認知的領域(cognitive domain)

- 組織的原理は精神的操作の複雑化。
- 目標は、

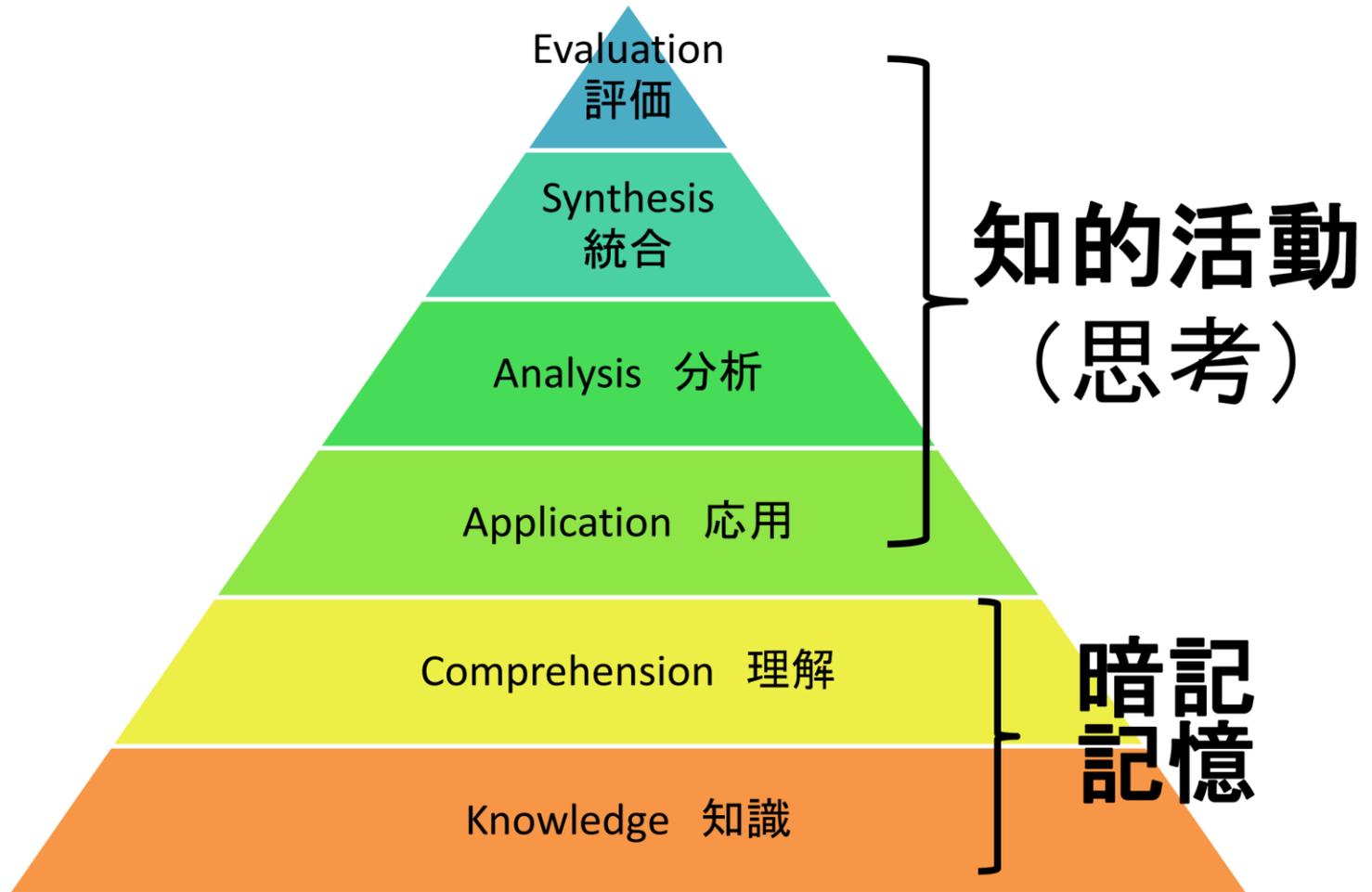
知識→理解→応用→分析→統合→評価

というかたちで高次化していく。



教育目標のタキソノミー（分類学）

教育目標のタキソノミー（分類学）



1. 知 識

知識(Knowledge)：与えられた客観的な知識・情報を暗記して、必要に応じて認識、想起できるようにする。

KW：識別、描写、名づけ、レッテル、認知、再生、真似

■ 発問の例

- ・ 漢字「発足」の読み方は何ですか。
- ・ 多種多様な両生類の図解からカエルを認識する。
- ・ 自宅周辺で二等辺三角形を見つけなさい。
- ・ ○×式問題や選択問題に答えなさい。

2. 理 解

理解力(comprehension)：与えられた客観的な知識・情報の内容や論理の展開を把握して、必要に応じて知識を活用できるようにする。

KW：解釈、例証、分類、要約、推測、比較

■ 発問の例

- ・ 文章問題を代数方程式に書き換えなさい。
- ・ 消化器系を図にきなさい。
- ・ リンカーンの就任演説をわかりやすく言い換えなさい。
- ・ 金利がいかに経済に影響を及ぼすかを説明しなさい。
- ・ この文の主題（テーマ）は何ですか。

3. 応 用

応用力(application)：学習した基本的な知識・理論・情報を活用して、直面した新たな課題や問題を解決できるようにする。

KW：構築、作成、構成、模型、予想、準備

■ 発問の例

- ・異なる土に植えた植物の育ち方を調べる実験を設計しなさい。
- ・文章を外国語で音読しなさい。
- ・地震から身を守るためには、どんな方法がありますか。
- ・貧困をなくすために、どのようなことをしたらいいですか。

4. 分 析

分析力(analysis)：問題状況や観察した事象を『複数の構成要素』に区分して、その傾向・特徴・確率などを分析したり関連づけたりする。

KW：比較・対照、分解、区別、選択、分類

■ 発問の例

- ・言葉がわからない外国人が住みやすい街にするためには何をしたらよいですか。
- ・外国語を学ぶことに対してよい点を3つ挙げなさい。また、その理由を述べなさい。
- ・小説における主な登場人物と脇役を示す図を描きなさい。
- ・政治家候補者のパンフレットを見て、問題に対するそれぞれの考え方の仮説を立てなさい。

5. 統 合

統合力(synthesis)：自分の学習経験や考えを統合したり、組み合わせたりして、現実世界で直面する問題・危機に対して新たなものを作り出せるようにする。

KW：類別、法則化、再構築

■ 発問の例

- ・日本の会社では、社内の公用語を英語にしようという考えがあります。長所と短所を挙げなさい。また、その理由を述べなさい。
- ・平和とはどんな状況のことをいいますか。それは実現可能なことですか。
- ・小説における主な登場人物と脇役を示す図を描く。

6. 評 価

評価力(evaluation)：『複数の構成要素』を適切に統合した結果として、新たな理論で独自の価値判断をしたり、批判したり、伝達したりする。

KW：査定、批評、判断、証明、議論、支持

■ 発問の例

- ・ 夫婦別姓についてどう思いますか。
- ・ 生活から出るゴミを減らすにはどうしたらいいですか。一番いい方法を考えてなさい。
- ・ 複雑な数学問題を解くにあたって最適な方法を選択する。
- ・ プロジェクトが、ルーブリック評価の基準をどれだけ満たしているか判断する。

「教育目標のタキシノミー（分類学）」を用いて、授業の中での発問を分析し、学習目標に基づく 知識→理解→応用→分析→統合→評価 における発問を作成しましょう。

教育目標	知識	理解	応用	分析	統合	評価
(例) 関ヶ原の戦い	関ヶ原の戦いはいつ起こったのか 【再生】	関ヶ原の戦いの概要を説明しなさい 【要約】	関ヶ原の戦いで石田三成が勝つためには何をすればよかったのか【予想】	関ヶ原の戦いの原因は何だったか 【分解】	何故、関ヶ原という地で戦いは行われたか 【類別】	関ヶ原の戦いによって徳川家康は、どのような社会を作ろうとしたのか 【批評】

課題

1. コミュニケーション実践のためのデジタルWeb教材を行ってレポートにまとめなさい。

<http://www.hayashi-tokuji.com/td-ict/index.html>